

市政に対する所信を申し述べさせていただきます。

現在、策定作業を行っております第五次総合計画関係でございますが、二十二人の市民有識者からなる「総合計画策定審議会」を組織し、去る十月二十五日の基本構想及び基本計画の諮問を皮切りに、三つの分野別にそれぞれ部会を開催しており、素案に対しての貴重なご意見やご提言を賜っているところでございます。今後もさらにご検証を賜り、来年一月中旬に答申をいただけるものと期待しているところでございますが、議員、関係各位、市民の皆様におかれましては、パブリックコメントを始め更なるご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

市制施行七十周年記念事業でございますが、市制施行日に当たります来年二月十一日に開催予定の記念式典に向けて、準備を進めているところでございます。関連事業の一つといたしまして、市制施行七十周年を多くの方々に関心を持っていただきますとともに、参加機運を高めることを目的として、総排気量五十CC以下の原動機付自転車ご当地ナンバープレートのデザインを広く募集したところ、全国各地から百点以上の応募がございまして、このたび選定させていただいたところでございます。採用いたしましたナンバープレートは「花手箱」をモチーフとしてデザインされたものでございまして、本市をアピールする動く広告塔として、市制施行七十周年の啓発活動となることを大いに期待するものでございます。

また、「過去を温めて新しきを知る」を七十周年記念事業のテーマとし、更なる飛躍と発展の契機となる式典となりますよう鋭意準備を進めてまいり所存でございます。

川辺川ダム関係でございますが、川辺川ダム以外の治水対策の現実的な手法について、極限まで検討するため、国、熊本県、流域内の関係十二市町村の参加により、「ダムによる治水を検討する場」を設置し、検討と議論を重ねてきたところでございます。去る九月五日の第九回の検討会のおきまして、進捗状況の説明、さらには、より個別の地域の状況を踏まえ具体的に検討を進めるために、実務レベルでの議論を活発にすることを目的として、検討会の下部組織となる「幹事会」を設置することについて合意がなされたところでございます。

今後も流域の皆様と協力し、治水対策を高めるためにスピード感を持って強力に推進してまいりたいと存じます。

防災関係でございますが、近年、世界各地で大規模な自然災害が頻発している中、わが国におきましては、先の東日本大震災による津波被害の復旧や原発事故の収束も進まないうちに、台風十二号が紀伊半島を襲い、大規模な土砂災害や河川の氾濫による被害が発生しております。度重なる自然災害により多くの尊い命が奪われたことは誠に痛ましく、胸が締めつけられる思いでございます。本市におきましては、六月の集中豪雨及び九月の台風十五号接近の際に、山間部で土砂災害発生危険があると判断をして、避難勧告や避難準備情報を発令いたしました。今回は、幸いにも人命にかかわるような災害は発生しておりませんが、引き続き防災対策を強化していかなければならないと気を引き締めているところでございます。

また、予想をはるかに超える災害の発生も想定する必要があります。現在は、本市において甚大な被害が発生した場合に備え、熊本県内の十三市と相互応援協定を締結しておりますが、県内で広域的な災害が発生した場合、その協定に基づく支援活動が求めにくい状況になることも考えられます。そこで、姉妹都市や友好都市との連携をより強化するという目的も含め、鹿児島県指宿市、静岡県牧之原市の両市と、災害時相互応援協定の締結について協議を重ね、本年八月に指宿市と、十月に牧之原市と、それぞれ応援協定の締結が実現いたしました。遠隔地の自治体と締結するのは今回が初めてでございます。この協定締結により、名実ともにふさわしい関係が構築できたものと存じ、緊急時にも、より迅速に救護活動、復旧活動などの相互支援が可能になるものと確信しております。

人権関係でございますが、去る十一月二十七日、カルチャーパレスにおきまして、「人権を大切にすまちづくりフェスティバル」を開催いたしました。これは、同和問題を始める様々なる人権課題について学び、差別のない明るい熊本をつくることを目的に、熊本県と共同開催したものでございます。本市とも縁の深い、童謡詩人金子みすゞの詩を紹介するライブ・コンサートや、映画「学校」をテーマとした一人芝居などの構成により、多数の参加者の皆様と共に楽しみながらも、人権尊重意識の高揚を図り、人と人との心の絆、支え合いについての思いを新たにいたしましたところでございます。

高齢者福祉関係でございますが、去る十月十六日と十七日の両日、人吉スポーツパレスを会場に開催いたしました「ねんりんピック2011熊本 囲碁交流大会」は、盛会のうちは無事終了することができました。参加されました選手の皆様のお声やアンケート調査結果から、「忘れ得ぬ人吉」として、好評を博した大会になったものと実感いたしております。「これもひとえに実行委員、運営委員の皆様方を始め、ご協力ご協賛を賜りました団体、企業の皆様方、さらには、スタッフとして献身的に業務に携わっていただきました多くの市民ボランティアの皆様のおもてなしの心の賜物であると存じ、心から感謝とお礼を申し上げる次第でございます。

今回、全国から集われました参加者のみなぎる活力とあふれんばかりの笑顔を模範とさせていただきながら、今後は本市の高齢者の皆様方の更なる健康づくり、生きがいづくり、仲間づくりを推進し、高齢者福祉の充実に努めてまいりたいと存じます。

また、ねんりんピックと併せて、十月十六日に開催いたしました「第三回健康と福祉の祭典 みんなしあわせ スマイルフェスタ」でございますが、本年は南相馬市応援ボランティアに託す応援寄せ書き旗やメッセージカードの作成、人吉高校の生徒たちによります応援展示、被災地支援トークなど、東日本大震災被災地支援の内容を盛り込ませていただきました。本年も人吉市しあわせの親善大使で自らも被災された、荒川知子とファミリーアンサンブルをゲストに迎えた「えがおコンサート」や、ご長寿の方から元気なお話を聞くことができました「百歳万歳」、子ども会のジュニアリーダーの皆さんにスタッフとしてがんばっていただいた「かえっこバザール」、本年初参加の人吉保健所コーナーなど、彩り豊かに開催することができ、まさに笑顔あふれる催しになったものと存じます。

健康づくり関係でございますが、本市では、疾病予防及び健康づくりの推進並びに疾病

の早期発見及び早期治療を目的に、現在、特定健診、保健指導及び各種のがん検診を実施しております。これまでも受診率の向上を目指し、様々な取組を行ってまいりましたが、目標の受診率に到達できていないのが実情であり、各種検診と複合検診の実施期間が異なっていることや、複合検診の実施期間が短いとの意見のほか、医療機関での健診には定員枠があったため、早朝から市民の皆さんが総合福祉センターに長蛇の列を作られるとの問題もございました。

そこで、受診しやすい健診を目指して、本市医師会と協議を重ねてまいりました結果、去る十一月九日に市民健診に関する協定を締結いたしました。平成二十四年度からは、総称を「市民健診」と改め、従来の特定健診と後期高齢者健診を「基本健診」、各種がん検診を「追加検診」として位置づけを行い、また、病院や医院での健診については、本市が送付する問診票到着後、希望する医療機関へ直接申し込むことができるよう改善し、実施期間につきましても、延長を図っております。

市民の皆様にご自身の健康状態をしっかり把握していただき、そこを出発点として、一人一人がお元気でいきいきとした生活ができますように、今後も市民健診の充実を図りながら、健康づくりを推進してまいりたいと存じます。

災害救助ボランティア養成事業でございますが、本市社会福祉協議会が事業主体となり、去る十月十三日から十一月二十八日までの間、四泊五日の日程で計七陣にわたり、総勢四十九人の市民の皆様に、福島県南相馬市にボランティアとして参加していただきました。現地では、「ひとよしよかばいサロン」と名づけた仮設住宅での集いの場づくりを始め、流出物の洗浄、物資の仕分けなどのボランティア作業にも取り組まれておられました。

延べ二十八箇所の仮設住宅で開催したサロンでは、毎回二、三十人の方々が集まれ、本市の紹介をした後、歌や方言クイズ、寸劇など各陣の工夫を凝らした演出により、楽しいひと時を過ごしていただけたものと存じます。私が参加した第六陣では、人吉市しあわせの親善大使であるリコーダー奏者の荒川知子さんも仙台から駆けつけ、市民ボランティアの方々と一緒に仮設住宅の皆さんと交流をしていただきました。

私自身、人と人との出会いの中で、様々な形で、本市と南相馬市の絆が結ばれていくことを目の当たりにし、感謝の気持ちでいっぱいになったところでございまして、今後は、報告書の作成、報告会の開催などにより、貴重な経験を市民の皆様と共有し、本市における災害ボランティアの体制づくりにつなげてまいりたいと存じます。

農業関係でございますが、野田佳彦首相は、米国ハワイ州で開催されたアジア太平洋経済協力会議（APEC）首脳会議において、「TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）交渉参加に向けて関係国と協議に入る」と表明されました。「守るべきは守り、勝ち取るべきは勝ち取る。国益を最大限に実現するために全力を尽くす」とも言われておりますが、本市におきましてはその動向に傾注しながらも、外国産農産物に負けないブランド化や六次産業化など、農業で食べられるまちの実現に向けて最大の努力を重ねてまいりたいと存じます。

去る十一月十二日、十三日の両日、ふるさと歴史の広場において、第六十二回ひとよし

産業祭が開催されました。おかげさまで、両日とも天候に恵まれ、市内外から多くのお客様にご来場いただきました。今年もステージにおきましては、市民の皆様による楽しい歌や踊りのほか、人吉高校吹奏楽部の皆様によるすばらしい演奏などの披露があり、また、食・物産コーナーにおきましては、地元食材を使った食べ物や加工品のほか、人吉球磨の物産や土産物などの販売をさせていただいております。さらに、今年は恒例の北海道小樽物産に加え、本市の友好都市でもございます静岡県牧之原市の物産販売や東日本大震災復興支援といたしまして、福島県南相馬市の物産販売を市民ボランティアの皆様のご協力により実施していただきました。実行委員会の皆様を始め、ご協力いただきました市民の皆様にご心からお礼を申し上げる次第でございます。

地産他商推進室では、大都市圏でPRイベントを開催し、本市の知名度アップと安心安全な農作物のPR及び販路拡大につなげることを目標に事業を展開しているところでございますが、去る十月六日から十一日まで「人吉球磨・目指そう日本一フェア」を千葉県のダイエー新浦安店で開催いたしました。期間中は、ダイエーのお客様に加え、人吉球磨に縁のある方の来店も多く、球磨栗を始めとする農産物や物品販売も盛況でございました。同じく本市のPRと販売促進を目指し、十一月二十三日から本日二十九日まで東京都庁二階全国PRコーナーにおきまして「人吉球磨の味めぐり」母ちゃんの手塩イン東京都庁」を開催いたしております。連日多くのお客様にご来場いただき、売り切れが続出したそうでございます。担当者は追加発送するなど商品の補充に追われていたようでございます。両イベントとも本市の知名度アップに大いに貢献したものと存じます。

また、去る十月二十八日、二十九日には、東京の藤田観光株式会社代表取締役社長、末澤政和氏を本市にお招きし、まちづくり親善大使への就任式と講演会、就任記念事業を開催いたしました。藤田観光株式会社は、東京の「椿山荘」や箱根の「小涌園」、大阪の「太閤園」、全国のワシントンホテルなどを経営するグループ企業で、ふるさと営業部を擁し、各地の食材の活用や観光PRなどふるさと発展のお手伝いにも力を入れておられます。

記念事業では、藤田観光のシェフの皆様のほか、本市のシェフや食のグループの皆様に料理を出し合っただき、試食と意見交換で盛り上がりを見せた交流会となりました。今後は、まちづくり親善大使のご縁により、各事業所を始めとした全国的ネットワークで、地産他商の更なる事業展開ができるものと大いに期待しているところでございます。

農林整備関係でございますが、平成二十四年度中に、本市と分収造林組合が契約しております分収造林のほとんどが契約満了の時期を迎えます。対象となる分収造林組合は七組合、契約面積は合わせて約百三十ヘクタールでございます。ほぼ同時期に契約満了となることから、まず本年度中に七組合中三組合分の立木の売払いを実施し、平成二十五年度まで三箇年をかけて残りの契約満了分の売払いを計画しております。

また、去る十一月十四日、九州電力株式会社の「九州ふるさと森づくり」記念事業の一環として、九州電力株式会社、熊本県及び本市の三者におきまして協定を締結したところでございます。この協定は、「九電の森ひとよし」という名称で行う企業との協働の森づくり活動を目的としたものでございまして、本年度に立木の売払いを行う分収林のうち、

下永野地区及び上戸越地区の伐採跡地約五ヘクタールにおいて一年に約一ヘクタールずつ、九州電力株式会社と協働して広葉樹の植栽と下刈を行うものでございます。

本年度におきましては、本市の市制施行七十周年記念事業の一つとして、来年三月三日に植樹祭を計画しております。植樹祭当日は九州電力株式会社熊本支社の社員やご家族、市内の関係者などを含め約六百人の参加を予定しているところでございます。

商工関係でございますが、本市の特産・物産品につきましては、静岡県島田市の「SLフェスタ」、静岡県牧之原市産業祭のほか各種イベントに出展するなど、人吉物産振興協会を主体に関係各団体が連携を図りながら、全国への情報発信と販路拡大事業を積極的に展開しているところでございます。今後九州新幹線全線開業を追い風とすべく、恒例となっております大阪での物産展ほか、新規事業として広島市や福岡県筑紫野市での物産展への出展を計画しております。球磨焼酎を始めとする特産品のPRやブランド化に努めてまいりる所存でございます。

本市梢山工業団地に平成七年十月に開校いたしました中小企業大学校人吉校は、去る十月に国の事業仕分けにより市場化が導入され、一部民間委託が実施されているところでございます。中小企業基盤整備機構が自ら実施する経営管理者研修などの長期研修を除く研修及び施設の管理運営が、人吉校では麻生教育サービス株式会社を筆頭とする「熊本あゆみらい協同事業体」に業務委託されております。今後、民間のノウハウを活かした多様な人材育成力リキウムなど魅力ある研修が組まれるとともに、管理運営の効率化、経費節減が期待されているところでございます。

観光関係でございますが、去る九月二十四日、第五十七回人吉花火大会を、ふるさと歴史の広場をメインの観覧場所として開催いたしました。球磨川の増水のため延期させていただきましたものです。今回の花火大会は、「ひとよし・くま旬夏秋冬キャンペーン」の一つとして取り組んでおります。ポスターにアニメーション夏目友人帳のキャラクターを採用し、このポスタープレゼントの企画や、花火の打上げプログラムに特別企画を組むなどで話題性と呼んだことから、本市及び人吉温泉観光協会のホームページアクセス数が大幅に伸びたほか、開催日が変更になったにもかかわらず、県内外から大勢の観覧客においていただきまして、澄み切った秋の夜空に打ち上げられる花火に魅了されておられたようでございます。

今回の花火大会の開催にあたりご協力を賜りました、関係各団体の方々から心からお礼を申し上げますとともに、ご協賛いただきましたスポンサー各社と関係各位に深く感謝申し上げます。次第でございます。

本年も十月十日に、「人吉球磨は、銭湯開始」と銘打った温泉PRキャンペーンを始めました。今回は、より多くの温泉を楽しんでもらえるように、趣旨に賛同いただいた人吉球磨四十二箇所の温泉施設の協力の下、「泉極SAGARA温泉巡りモバイルラリー」を来年四月三十日までの期間で実施してまいります。利用した温泉の数で、称号の階級が上がる仕組みで、最初は相良家の「無名武士」から始まり、「足軽隊長」、「筆湯家老」などを経て、全部の温泉施設を巡れば、「天下湯」の称号がパソコンや携帯サイトで与えられます。

今回のキャンペーンでは利用した温泉のコメントや、温泉施設ランキングなども見ることができ、ラリー参加者も増加中でございます。このように人吉球磨の観光素材を利用した観光宣伝を、今後も更に進めてまいりたいと存じます。

秋のじゅぐりつと博覧会でございますが、九月二十三日から始まりました博覧会も十一月末をもって終了となります。期間中、じゅぐりつと博覧会実行委員会主催によります落語や、新たに取り組みました駅前ぶらり街かど美術館といった様々な街中イベントを始め、カルチャーパレスで開催した出水中央高等学校演奏会や中小企業大学校での「天空の森コンサート」などの音楽イベントのほか、青井阿蘇神社と石野公園での灯りのイベント、SL人吉のお迎え・お見送りおもてなし事業など、各種イベントにご尽力いただきました実行委員の皆様方に対しまして、心から厚くお礼申し上げます。今後とも、じゅぐりつと博覧会を始め、本市の特色を最大限に生かした魅力あるおもてなしイベントを、市民の皆様と行政が一体となつて取り組み、本市観光の受け皿づくりにまい進してまいりたいと存じます。

土木関係でございますが、本市が進めております橋梁長寿命化修繕計画に基づきまして、市道戸越地内第三号線に架かっております小股橋の補修工事を実施する方向で進めてまいりましたが、詳細調査を行うなかで、ひび割れの補修工事を実施しても他の箇所ひび割れの発生を抑えることが難しいとの結果が出ましたので、今後、上部工の架け替え工事を実施してまいる所存でございます。

そのほか、赤池水無第一号線、瓦屋地内第一号線、西駅嵯峨里線につきましては、本年度工事が最終年度となりまして事業計画区間が完了いたします。ほかの生活関連道路の整備につきましても、順次進めてまいりたいと存じます。

学校教育関係でございますが、去る十一月十八日にカルチャーパレスにおいて子ども王国保安官設立五周年記念大会を開催いたしました。現在、保安官には老人クラブ連合会などに所属される方々を始めとする七百三十人が登録されており、児童生徒の登下校の時間帯に、あいさつ運動や交通安全に関する指導などを通して見守り活動を行っていただいております。不審者や交通事故から子どもを守る地域になくはない存在となっております。記念大会では日頃の活動内容の紹介を行い、児童代表から感謝の気持ちをお伝えいたしました。なお、このような献身的な活動に対しまして、くまもと犯罪の起きにくいまちづくり県民会議から功労団体表彰を受けられております。今後におきましても、児童生徒の安全安心のため、更なるお力添えをお願い申し上げます。

学校ICT関係でございますが、去る十月四日、中原小学校におきまして、総務省絆プロジェクト公開授業研究会を開催いたしましたところ、熊本県内外から学校関係者約二百人の参加をいただきました。この研究会では、同事業で整備しましたタブレットパソコンや電子黒板などを活用した研究授業のほか、総務省情報流通行政局情報通信利用促進課長安間敏雄氏、東京工業大学名誉教授清水康敬氏、宮崎大学教育文化学部教授新地辰郎氏を招いてのシンポジウムを行いました。九州を代表する本市の先駆的な学校ICT授業の展開などに対する理解がさらに深まるとともに、広くこの取組をアピールすることができた

ものと存じます。

放課後パワーアップ教室につきましては、十月十一日から市内の六小学校におきましてスタートしております。受講者は、市内小学校の四年生から六年生までの受講希望児童四百二人で、指導をいただく学習サポーターには教員免許を有する四十六人の先生方に、また学習サポーター補助には希望をされた保護者などの二十七人の方々に、無償ボランティアとしてご協力をいただいております。子どもたちは、学習サポーターの指導の下、復習の形で、本市教育委員会において準備いたしました国語と算数のプリントを一生懸命に解き、基礎学力の定着と向上を目指し取り組んでいるところでございます。今後子どもたちのやる気を引き出し、自信が高まる教室へと創意工夫を行ってまいりたいと存じます。

社会教育関係でございますが、幸福をテーマに、本当の幸せとは何か、心の豊かさとは何かを考え、人や社会とのつながりを築く力や社会を支え発展させることができる人間力の向上を図り、笑顔あふれる地域社会の構築を目的とした「第六回幸福追求人間学講座」を開催いたしました。今回は、講師に「開運なんでも鑑定団」でおなじみの古美術鑑定家中島誠之助氏をお招きして、「あなたにも分かるホンモノとニセモノ」と題しまして講演をいただき、参加された多くの市民の皆様には、楽しくご聴講いただいたものと存じます。

また、平成二十年度から文部科学省の委託事業として取り組んでまいりました「人吉市二中学校区学校支援地域本部事業」でございますが、このたび活動の成果が認められ「平成二十三年度優れた地域による学校支援活動推進にかかる文部科学大臣表彰」を受賞いたしました。これもひとえに地域の皆様方や教育関係の皆様方のご支援の賜物と、深く感謝を申し上げる次第でございます。今後はさらに学校と地域の連携体制の強化と地域教育力の向上を図ってまいれる所存でございます。

文化振興関係でございますが、第五十八回人吉球磨総合美展を始め、第六十五回犬童球溪顕彰音楽祭、人吉文化協会の主催による第三十八回人吉文化祭など、今年も芸術・文化の秋にふさわしい各種行事を盛大に開催することができました。六十五回の節目となりました犬童球溪顕彰音楽祭では、最終日の「音楽の夕べ」におきまして、地元合唱四団体のご協力により「犬童球溪合唱団」が結成され、数々の日本の四季の唄を披露されるなど、まさに手作りのステージを演出していただきました。これらの行事にご出品やご参加いただきました皆様並びに、ご来場いただきました皆様方に心から感謝申し上げます。

自主文化事業関係でございますが、去る十月二十日に開催した第三回「おどんな日本一！・人吉のど自慢大会」は、今回も多くの応募の中から二十三組の皆さんに自慢のものを披露していただきました。昨年同様、ゲスト出演、地元産品を景品とした抽選会なども行い、ご来場の皆様には大変喜んでいただいたところでございます。

また、来年一月十四日には、戦場カメラマンとしておなじみの渡部陽一氏を招き、「世界からのメッセージ〜平和と命の大切さ〜」をテーマに、文化講演会を計画しております。多数の皆様のご来場をお待ちいたしております。

次に、平成二十四年度予算編成に向け、その方針を定めましたので、ご報告申し上げます。

す。

国は、我が国の最優先課題を、まず東日本大震災からの復旧・復興、次に原子力災害の速やかな収束、そして震災と世界的な金融経済危機に直面している我が国の経済社会の再生としており、これら課題の解消に全力を尽くすとされております。

一方、地方財政については、一般財源総額を実質的に平成二十三年度の水準を下回らないよう確保するとしているものの、地方交付税の概算要求額は前年度に比べ一・六パーセントの減とされ、地方財政運営において大きな影響があると思われる新たな子ども向け手当の財源や、社会保障と税の一体改革については、その詳細を未だ示されておりません。

本市の財政状況については、経常収支比率が減少傾向にあるものの九十八・七パーセントと依然として高く、財政の硬直化は大きな改善とまでは至っておりません。また、近年の世界的な経済危機に加え、生産年齢人口の減少に伴い税収は減収傾向にあり、自主財源の確保は未だにたいへん難しい状況でございます。

このような厳しい財政状況の中でも、社会環境の変化と多様化する行政需要に的確に対応しながら、また、活気に満ち、活力あふれる市民生活の実現のために行財政改革に取り組むことで財源の確保をしなければなりません。このため、不要不急な事務事業の見直しを徹底し、歳出の効率化・重点化により所要財源の確保に努めることとし、財源の有効的な配分に努め、「最小の経費で最大の効果」をあげるよう予算編成方針を定めました。

市民の皆様方を始め、議員各位におかれましてもこの趣旨をご理解いただき、今後の改革改善に特段のご協力、ご協賛を賜りますようお願い申し上げます。